いきいき　健康生活
鴻巣市広報「かがやき」　平成２４年７月１５日号 掲載
機能性（無害性）雑音

心臓に雑音があると、心臓に病気があるのではないかと心配になります。心臓の雑音は、心臓に異常があって治療が必要なものと、そうでないものの２種類に分類されます。

心臓に明らかな異常がない心雑音を機能性あるいは無害性雑音といいます。小児の約半数に見られます。

学校の検診で心臓の雑音を指摘される小・中学生はたくさんいます。高校生にも時々みられますが、学校検診で見つかる心雑音はほとんどが機能性雑音です。

機能性雑音は弱いものから、強いものまで様々です。多くは、周囲が騒々しいと聞き逃してしまうようなごく軽い雑音です。このため、複数回の検診で心雑音を指摘されていないことはよくあります。

ほとんどの機能性雑音の原因ははっきりしません。心臓から送り出される血液量が多くなったり、あるいは血液の流れる速度が速くなったりすると雑音の原因になると考えられています。神経質になっている時、運動直後、発熱時などには心雑音が聴取されます。

機能性雑音の診断は聴診のみで、ほとんどの場合可能です。診断を確実にするために、胸部レントゲン検査、心電図、超音波検査などが必要になる場合もあります。

機能性雑音は大人になると急速に減少します。機能性雑音は治療する必要や、運動制限する必要もありません。このため、心雑音が機能性であるかどうかを診断することは学童検診において非常に大切です。